群教セ	G11 - 02
	平 15.213 集

働くことの素晴らしさを理解できる生徒の育成

―― 「こだわり」に視点を当てた学習活動を通して ――

特別研修員　石井　孝幸

《研究の概要》

本研究は、働く目的を考えながら、働く喜びや楽しみを追究することによって、働くことの素晴らしさを理解できる生徒が育成できることを明らかにしようとしたものである。具体的には、人が働く目的を考えながら、ゲストティーチャーの話を聞いて、働くことの喜びについて考える活動。さらに、生徒の生活の中の働く場面で、仕事へのこだわりに視点を当てて、自分なりの工夫や目標を考えて実行し、その感想を話し合う活動を行った。

【キーワード：進路指導　中学校　学級活動　職業観・勤労観　働く喜び】

Ⅰ　主題設定の理由

望ましい職業観・勤労観を育成することは、人がよりよく生きていくために必要なことであり、中学生の時期に、働く喜びや楽しさを知り、将来に夢や希望を持つようになることは、大切なことである。

本クラス(中学 1 年生 26 名)へ事前に行ったアンケート(複数回答可)では、働くことのイメージとして、「疲れる」が 77%、「大変」が 54%、「人のためになる」が８%、「楽しい」が４%であり、働くことに、明るいイメージをもっている生徒が少ない。働く目的についてのアンケート結果では、「収入のため」が 100%、「夢の実現」が 12%、「社会や人のため」が 12%であった。これは、長引く不況のもと、厳しい社会状況の中で、働く人が、経済的に安定した生活を維持できるようにするために苦労していることを、家族など身近な人から聞いているからであろう。生徒は、働くことは、生計の維持向上のために必要であると理解しているが、働く人が、自己実現の楽しさや社会貢献の喜びを味わいながら働いていることに気がついてはいない。

そこで、人は何のために働くのかを改めて考えていくこととする。そして、身近な所で働く人をゲストティーチャーとして招いて、働く目的や喜びについて話を聞くことによって、将来に夢や希望を持てるようにし、こだわりを持って働くことで、働く喜びが得られることを考えられるようにしたい。その後、働くことを自分との関わりで考える場面を設定する。生徒の生活の中の働く場面として挙げられる委員会活動、家庭での手伝い、部活動の中の仕事などで、今までの活動を振り返り、自ら考えた作業を加えたり、工夫をしたり、目標を作ったりして活動すれば、働く楽しさや喜びを実感できるであろう。これらの活動を通して、自己実現と人に役立つ喜びや楽しさ、やりがいを味わい、働くことの素晴らしさを理解できる生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

働く目的を考える中で、働く人から話を聞くことによって、働く喜びについて理解する。身近な生活の中の働く場面で、自分なりに工夫し、目標をもって体験活動を実行する。体験活動の後で自分の気持ちを振り返り、感想をまとめて発表し合うことで、働くことの素晴らしさを理解できる生徒が育成できることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

1　学級活動１において、働く目的について考え、話し合い、働く目的に関心を持つ。身近な所で働いている人をゲストティーチャーとして招き、体験を通して得たことを聞くことによって、生計を立てるため以外の働く目的について知ることができるであろう。

2　学級活動２において、ゲストティーチャーが話したことを、働く喜びを中心にまとめる。働く喜びを自分との関わりで考え、委員会活動や家庭での手伝いなど、自分たちの生活の中の働く場面を振り返ることによって、自己実現や人に役立つための工夫改善を考えたり、目標を持ったりすることができるであろう。

3　学級活動３において、「こだわりウィーク」での活動を振り返り、自分の働きに対する感想を書いて発表し合うことによって、自己実現や人に役立つ喜びと楽しさ、やりがいを味わい、働くことの素晴らしさを理解できるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1)　働くことについて

「働く」とは、生計の維持・向上だけでなく、自己実現や社会貢献を目的としている。

中学生にとっての仕事というと、やはり「勉強」がまず挙げられるが、ここでは、望ましい勤労観の育成として、委員会活動、部活動の中の仕事、家庭での手伝いなどの作業的なものに着目する。

自己実現とは、自分で考えたことや自分で工夫したことを実行し、成果を得て充実感を味わうこと、また、集団の中で、責任を果たして、自分の存在感を実感することであると考える。

社会貢献とは、周囲にいる生徒や家族のために自分の働きが役に立つことであると考える。

(2)　働くことの素晴らしさを理解できる生徒について

「働くことの素晴らしさ」とは、自分で自分の仕事に満足したり、働くことによって他人から認められて達成感を得たりして、楽しさや喜びややりがいを味わえることであると考える。また、所属する集団などに対して責任を果たす満足感、自分の働きによって、自分や周囲の人の生活がよりよくなる充実感を味わえることであると考える。

「働くことの素晴らしさを理解できる生徒」とは、委員会活動や家庭での手伝いなど、身近な生活の中の働く場面で、自分なりに工夫したり、目標を持って努力したりして活動する体験を通して、「働くことの素晴らしさ」を実感した生徒であると考える。

(3)　「働くことの素晴らしさを理解できる生徒」が育つ過程

前項でとらえた「働くことの素晴らしさを理解できる生徒」の具体的な姿から、次のような流れで、目指す生徒が育っていくと考えた。

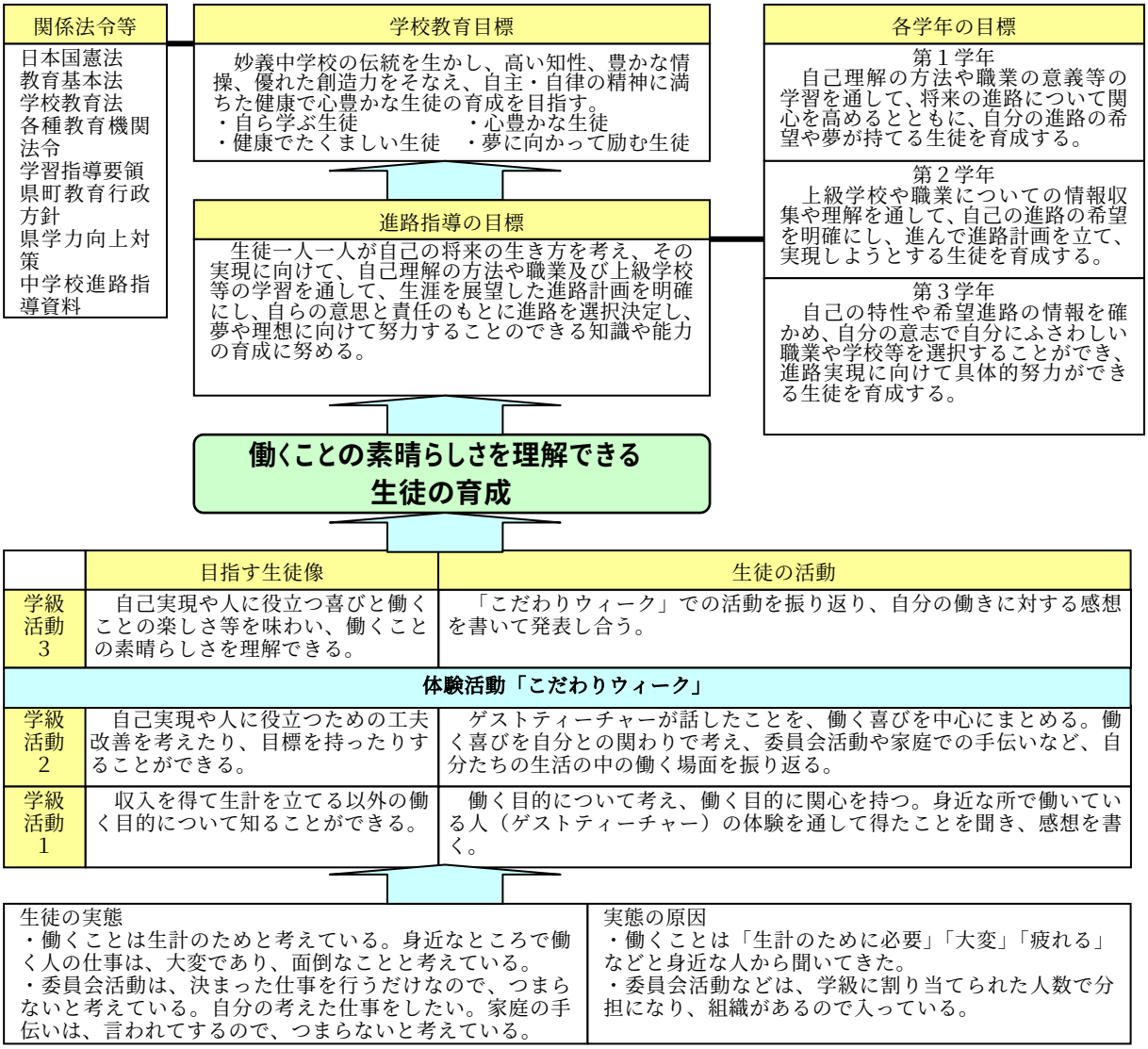
①　働く目的を改めて考える。
②　働く喜びに気付く。（①②⇒見通し１）
③　働くことを自分との関わりで考える。
④　働くことに工夫、改善をする。（③④⇒見通し２）
⑤　工夫、改善した活動を実施する。（⑤⇒体験活動）
⑥　工夫、改善した体験活動を振り返る。
⑦　働く楽しさ、喜び、充実感を実感する。（⑥⑦⇒見通し３）

(4)　こだわりについて

「こだわり」とは、働くときに自分なりに工夫していることや目標の実現に向けて努力をやり通すことである。こだわりをもって働くことで、個性の発見・伸長ができたり、自分の仕事に納得しながら、自分自身に誇りをもてるようになったりすることに結びつくものと考える。

「こだわりウィーク」とは、委員会活動や部活動の中の仕事や家庭での手伝いのように生徒の生活の中で働く場面に、自分なりの工夫をしたり、目的をもったりして、主体的に働く１週間の体験活動とする。「こだわりウィーク」の事前に、それまでの活動を改善するような工夫をしたり、目標を作ったりして、こだわりを持ち、事後に活動を振り返ることによって、働くことの素晴らしさを理解できるようにしようと考える。

(5)　全体構想図



2　実践の概要及び結果と考察

考察にあたっては、学級全体および抽出生徒Ａ子のアンケートやワークシート「わくわくワーク」への記述内容や、体験活動「こだわりウィーク」の事後の行動の様子を中心に分析を行い、その変容をとらえた。

抽出生徒Ａ子は、事前に実施した意識調査で、働くことのイメージには、「疲れる。大変」と書いて、働く目的については、「お金をもらうため」と書いた生徒である。

(1)　ゲストティーチャーが体験を通して得たことを聞くことによって、収入を得て生計を立てる以外の働く目的について知ることができたか。（見通し１）

ア　実践の概要

事前に実施した働く目的についてのアンケート結果をもとに、生徒同士で話し合い、働くことについて興味をもてるようにした。ゲストティーチャーから、体験を通して得たことについての話を聞いて、「職業についた経緯」「苦労していること」「努力や工夫していること」「仕事へのこだわり」「働く喜び」の５つの観点についてメモし、自分たちが考えた働く目的とゲストティーチャーから聞いたことを比較しながら感想を書いた。

イ　結果と考察

生徒が授業の初めに考えた働く目的は、事前のアンケートと変わらず、「生計のために収入を得る」が全員で、それに対して「夢の実現」や「社会や人のため」と答えたのは約１割の生徒であった。

ゲストティーチャーの話を５つの観点についてメモし、授業の終わりに生徒が書いた感想は、「お金だけじゃなくて、喜びがあることがわかった」「働くということは、つらいだけかと思ったが、喜びがあったので、びっくりした」「仕事についてのありがたみや喜びがあるのだと思った」などが全体の約８割で、働く喜びがあることについて知ることができた。ゲストティーチャーの話の中には、生徒が思いもしなかった働く喜びを語る場面があり、また、その話をしていたときのゲストティーチャーの表情が誇らしげであったことに真実味があり、生徒の働くイメージに変容をもたらした。

メモしたことや感想に「課題を達成する喜びを考えると楽しい」「一生懸命やって、達成するとうれしい」などと書いて、生徒全員が自己実現の喜びに気づいた。また、「周囲の人の笑顔が見られることが喜びというのがわかった」などと書いて、約９割の生徒が社会貢献の喜びに気づいた。

Ａ子は、授業のはじめに、働く目的は「お金をもらうため」と書いていた。授業の終わりに書いた感想（資料１）は、「働くとはつかれるだけではなく、仕事へのこだわりや喜び、楽しみがあるということがよくわかった」であった。また、ワークシートにメモしたことは、「課題を達成したとき」「いい品物ができたとき」「周りの人の笑顔を見たとき」などで、働くことは、自分なりに工夫して、よりよいものを作ろうと心がけることであること、自分の働きが周囲の人のためになることに気付くことができた。Ａ子は、ゲストティーチャーの話を聞きながら、働くことは、単に収入のためだけではなく、自己実現や社会貢献を目的としているこ

資料１　Ａ子のワークシート①

わくわくワーク「働くって何のため？」

１年　名前（　　）

１　人は、何のために働くか？

お金をもらうため。

２　身近な所で働く人の職業に話した経緯、苦労、努力や工夫、こだわり、喜びは？

職業名　駅員

職業についた経緯　子どもマンになりたかった。

苦労していること　時間がないこと。

努力や工夫していること　仕事をらくにしようとする。

仕事へのこだわり

働く喜び

職業名　農業

職業についた経緯　役にたつためだった。

苦労していること　手伝いがさびしい。

努力や工夫していること　経費のお金を少なくする。

仕事へのこだわり　しゅ 5000円 = 1000万円

働く喜び　いい品物が出来た時。

３　身近で働く人の話を聞いた感想をまとめましょう。また、そう思った理由を書きましょう。

感想　働くとはつかれるだけではなく、仕事へのこだわりや喜び、楽しみがあるということがよくわかった。

理由　私は話を聞く前までは お金をもらうために働くのかと思っていたけど話を聞いて仕事はお金をもらうためだけではないということがわかったから。

とを知ることができたといえる。

以上のことから、ゲストティーチャーの話を５つの観点で聞き取ったことによって、生徒は、今までの働くイメージと異なった働く喜びに強い印象をもち、それに着目しながら、生計のため以外に、自己実現や社会貢献をも目的としていることについて、知ることができたといえる。

(2)　ゲストティーチャーの話を働く喜びを中心にまとめ、働く喜びを自分との関わりで考え、委員会活動や家庭での手伝いなど、自分たちの生活の中の働く場面を振り返ることによって、自己実現や人に役立つための工夫を考えたり、目標を持ったりすることができたか。（見通し２）

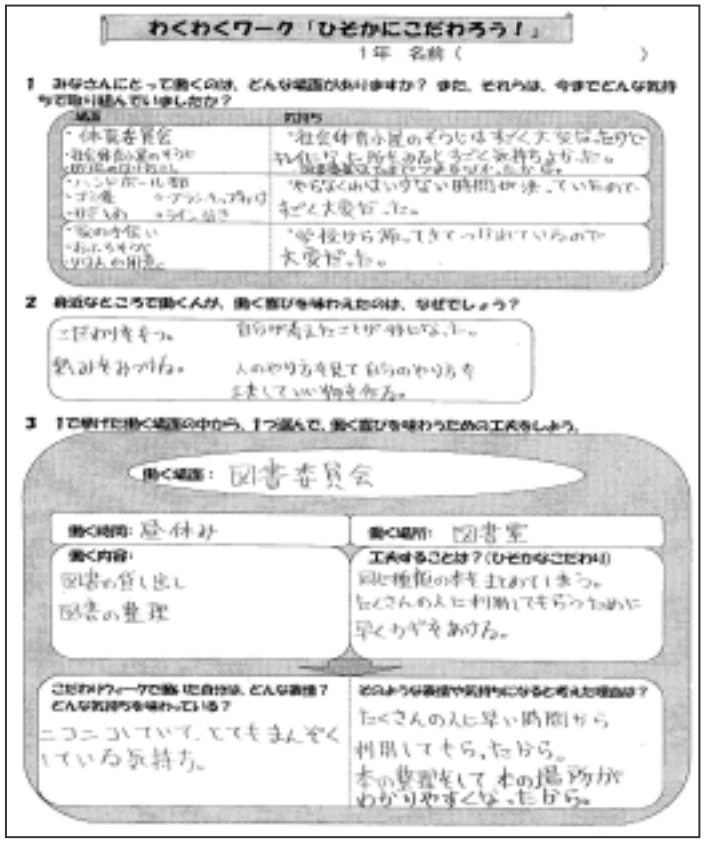
ア　実践の概要

身近な生活の中で働いているときの気持ちを考えた。その後で、ゲストティーチャーが働く喜びを味わえた理由について、学級活動１を振り返りながらまとめた。生徒の生活の中の働く場面から１つ選び、その改善として、自分なりに工夫したやり方や目標をこだわりとして、ワークシートに書いた。

イ　結果と考察

ゲストティーチャーが働く喜びを得られた理由について整理した結果、生徒がワークシートに書いたことは、「研究した」「勉強した」「努力した」であった。このことから、生徒は、働く喜びを得るためには、自ら改善方法を考え、実現に向けて努力することが大切であることを知ることができたといえる。これを基にして、自分たちの生活の中の働く場面を振り返って、自分なりの工夫改善を考えた結果、「朝の健康観察で、一人一人の表情を見る」「グランド整備では、スパイクで、でこぼこになったところを重点的に平らにし、友達と協力しながら隅から隅までする」などを書いた。また、人に役立つことを目指すものとして「洗濯物をたたむときに、お父さん、お母さんの作業着のズボンをきちんと折り目に合わせてきれいにたたむ」「昼の放送で、みんなが聞き取り易いように、はっきり発音する」などを書いた。生徒全員が、今までの自分と違って、主体的に取り組むような工夫をしようとした。

資料２　Ａ子のワークシート②


わくわくワーク「ひそかにこだわろう！」

1年　名前（　　）

1　みなさんにとって働くのは、どんな場面がありますか？ また、それらは、今までどんな気持ちで取り組んでいましたか？

場面	気持ち
・体育委員会 ・社会体育小屋のそうじ	・社会体育小屋のそうじはすごく大変だったけどキレイになった所をみるとすごく気持ちよかった。
・ハンドボール部 ・ゴール　・グランドの石ひろい ・ボールあつめ　・ライン引き	・やらなくてはいけない時間が決っていたのですごく大変だった。
・家の手伝い ・おふろそうじ ・ゴミの処理。	・学校から帰ってきてやっていたので大変だった。

2　身近なところで働くんが、働く喜びを味わえたのは、なぜでしょう？

こだわりをもつ。　自らが考えたことが形になった。

熱意をおびる。　人のやり方を見て自らのやり方を工夫していいものを作る。

3　1で挙げた働く場面の中から、1つ選んで、働く喜びを味わうための工夫をしよう。

働く場面：図書委員会

働く時間：昼休み　　働く場所：図書室

働く内容：図書の貸し出し　図書の整理

工夫することは？（ひそかなこだわり）：同じ種類の本をまとめていまう。たくさんの人に利用してもらうために早くかぎをあける。

こだわりウィークで頑張った自分は、どんな表情？どんな気持ちを味わっている？：ニコニコしていて、とてもまんぞくしている気持ち。

どのような表情や気持ちになると考えた理由は？：たくさんの人に早い時間から利用してもらったから。本の整理をして本の場所がわかりやすくなったから。

Ａ子は、ワークシート②（資料２）に、ゲストティーチャーが働く喜びを味わえた理由について「こだわりをもつ」「自分が考えたことが形になった」「人のやり方を見て、自分のやり方を工夫していいものを作る」などと書き、働くことに工夫改善することが大切であると考えた。

「こだわりウィーク」で取り組む場面には、図書委員での仕事を選んだ。前期の体育委員のときには、体育小屋の清掃は大変だったけれども、ハードルなどの道具を全部出して、隅まで埃を掃きだし、きれいになったことで、気持ちよさを味わえた。しかし、後期の図書委員では、本の貸し出しの受付だけで、仕事にやりがいを味わえずにいた。そこで、図書委員の仕事でも喜びや楽しみを味わいたいと考えた。Ａ子の工夫改善は、「同じ種類の本をまと

めてしまう」で、本を整頓してきれいになった本棚を見て、自分の働きに達成感を味わうとともに、利用者にわかりやすくなるようにしたいと考えたからである。また、「たくさんの人に利用してもらうために早く鍵をあける」を書き、人に役立つことを目指そうとした。この工夫改善から、Ａ子の目指す図書委員の理想像がはっきりしたこと、積極的に人に役立とうとする気持ちをもてたことがわかる。

以上のことから、ゲストティーチャーが働く喜びを味わえた理由についてまとめたことで、自分なりの工夫改善と、その取組への努力が大切であることを理解できた。そして、生徒が生活の中の働く場面を振り返ったことによって、働く場面に自分なりの工夫改善をし、目標や働く理想の姿を作ることができたといえる。

(3)　「こだわりウィーク」での活動を振り返り、自分の働きに対する感想を書いて発表し合うことによって、自己実現や人に役立つ喜びと楽しさ、やりがいを味わい、働くことの素晴らしさを理解できたか。（見通し３）

ア　実践の概要

「こだわりウィーク」で働いた自分について振り返り、感想を発表し合い、学級全体で「こだわりウィーク」で取り組んだときの気持ちを発表し合った。

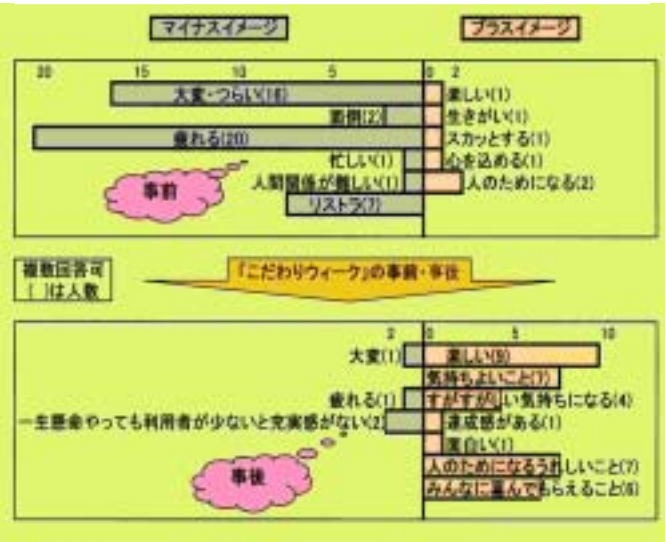
イ　結果と考察

「こだわりウィーク」を振り返った感想の発表では、工夫改善した自分の働きに対して「一生懸命やって、すがすがしい気持ちになった」「目標を達成できて、いい気持ちになった」「いつもより意識しながらやったら、楽しくなって、気持ちよくなった」などを書き、自分の目指す姿像が実現した喜びを味わうことができた。また、「洗濯物をたたんだ後に、『ありがとう』と言われて、すがすがしくなった」「トイレを使う人がすっきりできそうでよかった」などを書き、人のために役立つ喜びを味わうことができた。このように働く喜びや楽しさを味わえた生徒は全体の 96%であった。感想を発表し合った後の生徒の意見には、「仕事は心を込めることが大切」「自分なりのこだわりを持つことが大切」などがあり、自主的にやろうとする気持ちが大切であることを共感し合った。

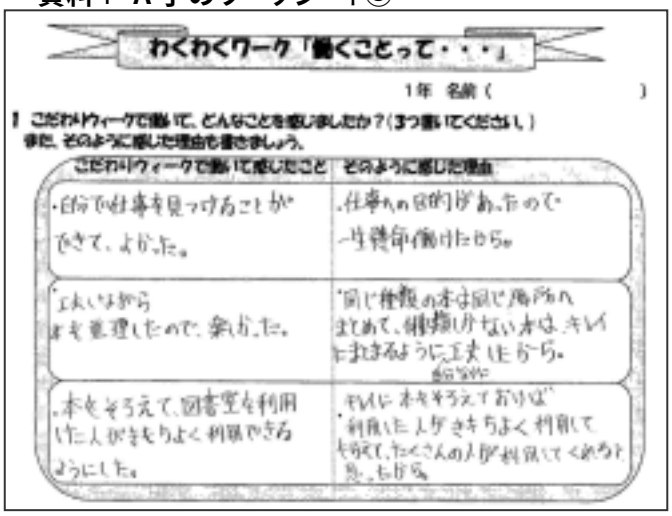
事前に行った働くイメージと生徒の体験後の感想とを照らし合わせながら働くイメージについてまとめると、働くことに対して「気持ちよいこと」「すがすがしい」などの新たなイメージを持てるようになり、プラスのイメージが多くなった。（資料３）

Ａ子は、資料４のように、「こだわりウ

資料３　働くイメージ（事前・事後）



資料４　Ａ子のワークシート③


わくわくワーク「働くことって・・・」

1年　名前（　　）

1 こだわりウィークで働いて、どんなことを感じましたか？（3つ書いてください。）
また、そのように感じた理由も書きましょう。

こだわりウィークで働いて感じたこと	そのように感じた理由
・自分で仕事を見つけることができて、よかった。	・仕事の目的があったので一生懸命働けたから。
・楽しいから まき整理したので、楽しかった。	・同じ種類の本は同じ場所へまとめて、間違えないように、キレイにまとまるように工夫したから。
・本をそろえて、図書室を利用した人がきもちよく利用できるようにした。	・キレイに本をそろえておけば、利用した人がきもちよく利用してもらえて、たくさんの人が利用してくれると思ったから。

ィーク」での体験活動の感想に、「工夫しながら本を整理したので、楽しかった」と書き、自分なりに工夫したことを積極的に実行し、本がきれいにそろったことで、自分の働きに対して達成感を味わえたといえる。また、「本をそろえて図書室を利用した人が気持ちよく利用できるようにした」と書き、自分の働きが、人に役立つことにつながることを理解し、自分の目指す図書委員の姿を達成して、働く楽しさ、やりがいを実感したといえる。

さらに、A子は、「こだわりウィーク」の後には、廊下掃除で、雑巾がけでは落ちない汚れを、自ら考えて、クレンザーを使って磨き落とすようになった。

生徒は、「こだわりウィーク」を通して、自分なりに仕事への工夫改善をしたことで、積極的に働くことができた。その結果として、今までよりも仕事に成果があり、働く自分に自信をもつことができ、働くことに充実感を味わうことができた。

「こだわりウィーク」の後には、ほとんどの生徒が、さまざまな場面で、自ら工夫改善しながら活動するようになった。例えば、教室掃除では、入り口のレールにこびりついた埃を削るように取り除いたり、協力しながらロッカーを動かしてその裏を掃除したりするようになった。

以上のことから、体験活動「こだわりウィーク」の後に振り返り活動を行ったことで、自己の働きの喜び、楽しさ、やりがいを改めて実感することができた。そして、感想を発表し合ったことによって、工夫して取り組むことで、働く喜び、楽しさ、やりがいを味わえることを友達とも共感し合うことができた。さらに、学級活動３の後の活動でも、自ら工夫して働くようになり、働くことの素晴らしさを理解できるようになったといえる。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

○　働くことについて生徒が考えたことと、身近な所で働く人から聞いたことを比較することによって、働くことは、自分で工夫したり、努力したりして、自分の仕事に納得しながら、働く喜びを得ていることを知ることができた。働く目的に、収入を得て生計を立てること以外に、自己実現や社会貢献があることを知ることができた。

○　身近なところで働く人が、働く喜びを得た理由をまとめ、自分たちの生活の中の働く場面を振り返ったことは、働く目的の理解を深め、生徒の働く場面で、自己実現や人に役立つための工夫や目標を考えることに有効であった。

○　「こだわりウィーク」での活動を振り返り、感想を発表し合ったことは、働く喜び、楽しさ、やりがいを実感し、働くことの素晴らしさを理解するのに有効であった。その後の生活の中の働く場面にも自分なりに工夫した積極的な活動が見られるようになった。

2　今後の課題

働くことは、自己実現の楽しさ、人に役立つ喜び、やりがいがあることを、生徒は短期間の体験活動の事前事後の学級活動を通して理解してきた。これからは、将来の職業に着目し、２年次の職場体験学習においても、自分なりの工夫や目標を持って取り組むことで、望ましい職業観・勤労観が育成されていくのではないかと考える。

＜主な参考文献＞

・『目的意識を育てる進路指導』　　財団法人日本進路指導協会(1987)
・『進路指導　第 76 巻　第 9 号』　　財団法人日本進路指導協会(2003)
・ジョン・デューイ著　市村　尚久訳　『学校と社会』　　講談社（1998)
・『研究報告書第 199 集【長期研修員】』　　群馬県総合教育センター(2002)